

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	帝塚山学院大学
設置者名	学校法人帝塚山学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
リベラルアーツ学部	リベラルアール学科	夜・通信		-	0	16	13	
人間科学部	キャリア英語学科	夜・通信	16	-	17	33	13	
	情報メディア学科	夜・通信		-	22	38	13	
	心理学科	夜・通信		-	32	48	13	
	食物栄養学科（管理栄養士課程）	夜・通信		-	32	48	13	
	食物栄養学科（健康実践栄養士課程）	夜・通信		-	26	42	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

開講科目・シラバス検索画面 https://portal.tezuka-gu.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	帝塚山学院大学
設置者名	学校法人帝塚山学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HP上で公開している事業報告書において、理事名簿を記載している。
(<https://www.tezukayama.ac.jp/report/index.html>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	病院経営	2019/04- 2022/03	企画・調整、コンプライアンス
非常勤	株式会社役員	2019/04- 2022/03	経営に対する助言、 業務執行に対する監督
(備考) 上記を含め、外部理事は10名である。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	帝塚山学院大学
設置者名	学校法人帝塚山学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学のシラバスは「授業の目的」「授業概要」「到達目標」「評価方法」「準備学習」「授業計画」「テキスト」「参考文献」等からなっており、教員の実務経験についてもシラバスに記載し、Web上で公開している。シラバス作成にあたっては、学生の主体的な科目選択と学習を促進することを重視している。作成方法については、シラバス作成の手引きを配布するとともに、FD研修会を実施している。また、シラバス作成後に教務部委員による第三者チェックを実施している。</p> <p><参考：シラバス作成過程・時期></p> <p>前年11～12月 全教員対象にシラバス作成に関するFD研修会を実施。</p> <p>前年12～1月 担当教員にシラバス作成依頼。</p> <p>2月頃 シラバスの全科目について教務部委員会で第三者チェックを実施。</p> <p>3月末頃 Web上においてシラバスを公開。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://portal.tezuka-gu.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>単位認定・成績評価については履修規程に明記している。また、各科目の評価については、シラバスに「評価方法」を明記した上で、それに基づき公正に行っている。評価方法は、「平常点」「小テスト」「到達度の確認」「学期末試験」「学期末レポート」等からなるが、シラバスには評価割合を百分率で明示している。シラバス作成においては、複合的な評価に留意し、単一の評価指標のみの評価を改めるようチェックを行っている。</p> <p>成績の評価は、秀・優・良・可・不可・失格(出席不足)をもってあらわし、秀～可を合格として単位授与している。秀～不可については、100点法の点数も併せて成績として通知する。</p> <p>『学生要覧 (履修の手引き項参照)』</p> <p>(https://www.tezuka-gu.ac.jp/to_student/classwork/)</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPA 制度について「学生要覧」において算出方法を記載している。GPA は、評点のうち、秀 (100~90 点) につき 4.0、優 (89~80 点) につき 3.0、良 (79~70 点) につき 2.0、可 (69~60 点) につき 1.0、不可および失格につき 0 をそれぞれ評価点 (Grade Point、以下「GP」という) として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、登録科目 (資格専門科目等の卒業単位に算入されない科目、履修辞退科目、認定科目を除く) の総単位数で除して算出している。</p> <p>GPA の分布状況について、各学生の相対順位を把握するため、学部学科・課程、学年単位で GPA 値による成績分布の学内公表をするとともに、科目 (クラス) ごとの成績分布の学内公表を行い、把握している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>『学生要覧 (GPA 制度について項参照)』 https://www.tezuka-gu.ac.jp/to_student/classwork/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教育目的を踏まえ、卒業の認定に関する方針として、学科・課程ごとにディプロマポリシーを作成している。ディプロマポリシーでは「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の 4 領域ごとに具体的な項目を設定しており、全学共通項目と学科独自項目と組み合わせて、設計している。全学共通項目では、本学が特に、4 年間を通してのキャリア形成教育・支援、また基礎力として「日本語力」「英語力」「ICT 活用力」「論理的思考力」の獲得を重視していることから、これらに関わる能力、適性を十分に反映するように工夫している他、「自己理解力」「社会理解力」「協調性」「主体的行動力」「社会的マナー」等、社会人基礎力にもつながる項目を多く入れている。作成した方針は、Web 上に公表するとともに、「学生要覧」にも掲載し、卒業要件単位数などとともに、学生に周知している。なお、ディプロマポリシーとカリキュラムの一貫性を担保する方策として、カリキュラム内の各科目にディプロマポリシーとの関係性を明示したカリキュラムマップを全学科で作成し、Web 上で公開し、シラバスにも明記している。</p> <p>卒業判定は、卒業年次以上の学生について修得単位数・不足単位数及び内訳をもとに、教授会で審議・決定している。リベラルアーツ学部の卒業に必要な最低単位数は 124 単位である。平成 29 (2017) 年度入学生以降、共通科目は各分野の必修・選択必修を合わせて 32 単位以上、学科専門科目は必修の演習科目と専攻学習科目等を合わせて 72 単位以上を必要としている。人間科学部の卒業に必要な最低単位数は、キャリア英語学科、情報メディア学科、心理学科が 124 単位、食物栄養学科が 128 単位である。平成 29 (2017) 年度入学生以降、共通科目は各分野の必修・選択必修を併せてキャリア英語学科では 31 単位以上、その他の学科では 28 単位以上を必要としている。学科専門科目は、必修科目・選択科目を併せて、キャリア英語学科は 73 単位以上、情報メディア学科は 72 単位以上、心理学科は 76 単位以上、食物栄養学科は管理栄養士課程 62 単位以上、健康実践栄養士課程 66 単位以上を必要としている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>大学 HP 帝塚山学院大学の教育方針 https://www.tezuka-gu.ac.jp/about/policy/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	帝塚山学院大学
設置者名	学校法人帝塚山学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tezukayama.ac.jp/report/
収支計算書又は損益計算書	https://www.tezukayama.ac.jp/report/
財産目録	https://www.tezukayama.ac.jp/report/
事業報告書	https://www.tezukayama.ac.jp/report/
監事による監査報告(書)	https://www.tezukayama.ac.jp/report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画書)	対象年度: 平成30年度)
公表方法: https://www.tezukayama.ac.jp/report/index.html	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: HP上において公表している。 https://www.tezuka-gu.ac.jp/about/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: HP上において公表している。 https://www.tezuka-gu.ac.jp/about/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 リベラルアーツ学部、人間科学部	
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.tezuka-gu.ac.jp/about/spirit/)	
(概要) 本学の使命目的は、学則第 2 条に次のように規定されている。 本学は、教育基本法および学校教育法の規定するところに従い、「力の教育」、すなわち意志の力、情の力、知の力、躯幹の力を含む全人教育を以って有為な人材を社会に送り出すという帝塚山学院建学の精神を継承しながら、豊かな教養を身につけ自学自習の教育によって求知心を育み、社会に貢献し得る品性高い人材を育成することを目的とする。 この規定とその解説を、大学 HP および学生要覧等に掲載し、周知を図っている。各学部・学科の教育研究上の目的は学則第 5 条に次のように規定している。	
リベラルアーツ学部	社会の急速な変化に対応できる広い視野、判断力を有し、企画力、実践力、推進力のある総合的、学際的教養を身につけた人材の育成を目指す。
	リベラルアーツ学科 社会の急速な変化に対応できる広い視野、判断力を有し、企画力、実践力、推進力のある総合的、学際的教養を身につけた人材の育成を目指す。
人間科学部	情報化社会における人間行動の科学的な解明を目指し、各学科の専門分野の知識・技能とともに関連する分野を幅広く学び、現代社会における実践的能力を備えた人材を目指す。
	キャリア英語学科 グローバル化、情報化する現代社会で実践的英語力を「仕事」に活かし社会に貢献できる人材を育成する。
	情報メディア学科 情報・メディアの特質を理解し、情報・メディアの様々な活用法を研究することを通して、新しい社会のしくみを創造していく人材を養成する。
	心理学科 心理学の知識と技能を理論的、体験的に修得するとともに、健康科学領域に関する知識も修得し、地域と社会に貢献できる専門家となる人材を養成する。
	食物栄養学科 「食」、「栄養」に関する高度な専門的知識を有し、総合的なマネジメント力を身につけた「食」に関する専門職業人を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.tezuka-gu.ac.jp/about/policy/)	
(概要) 教育目的を踏まえ、卒業の認定に関する方針として、学科・課程ごとにディプロマポリシーを作成している。ディプロマポリシーでは「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の 4 領域ごとに具体的な項目を設定しており、まず全学共通項目と学科独自項目と組み合わせ、設計している。全学共通項目では、本学が特に、4 年間を通してのキャリア形成教育・支援、また基礎力として「日本語力」「英語力」「ICT 活用力」「論理的思考力」の獲得を重視していることから、これらに関わる能力、適性を十分に反映するように工夫している他、「自己理解力」「社会理解力」「協調性」「主体的行動力」「社会的マナー」等、「社会人基礎力」(経済産業省)にもつながる項目を多く入れている。作成した方針は、Web 上に公表するとともに、「学生要覧」にも掲載し、卒業要件単位数などとともに、学生に周知している。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.tezuka-gu.ac.jp/about/policy/)	

<p>(概要)</p> <p>ディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針）を踏まえ、学科・課程ごとにカリキュラムポリシーを作成している。カリキュラムポリシーは、大学HP、「学生要覧」等に掲載している。なお、ディプロマポリシーとカリキュラムの一貫性を担保する方策として、カリキュラム内の各科目にディプロマポリシーとの関係性を明示したカリキュラムマップを全学科で作成し、Web上で公開している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針(公表方法:https://www.tezuka-gu.ac.jp/about/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学のアドミッションポリシーは、帝塚山学院建学の精神や教育理念に基づき設定しており、各学科が受験生に求める能力や適性を明確に定めている。それらはまた、学部・学科のカリキュラムポリシー、そしてディプロマポリシーへと一貫性をもったものとなっている。</p> <p>学部は学科・課程単位で定めており、「入学試験要項」、「学生要覧」及び大学HPに明示し、オープンキャンパスや入試説明会において周知している。オープンキャンパスでは、学部・学科案内、入試説明、進学相談、学内見学や体験授業などを通して、本学教職員や学生スタッフ等が、来校した受験生や保護者に本学の教育理念や教育の方法・内容などを説明し、また質問に答える形で、アドミッションポリシーを伝えるよう努めている。また、進学ガイダンスなどの各種説明会、各地の高校訪問など、受験生等への対面的な募集活動を通してアドミッションポリシーの周知徹底に努めている。</p> <p>全学共通の入学者選抜の基準は、「本学の教育理念を十分に理解しているとともに、幅広く深い教養と豊かな人間性を育む上での基礎的な学力ならびに、各学科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく専門教育へのレディネスを備えていること」としている。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：https://www.tezukayama.ac.jp/info/</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
リベラルアーツ学部	—	14人	3人	1人	0人	0人	18人
人間科学部	—	27人	9人	10人	0人	9人	55人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		192人				192人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://portal.tezuka-gu.ac.jp/public/v2kgr/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD・SD研修会は全学研修会を7回、各学科において計22回、各部主催研修が10回実施した。							
(2018年度実施研修会の例)							
7月4日 「基礎導入科目の現状と課題」（学科FD）							
7月17日 「高等学校次期学習指導要領について～とりわけ、情報科の内容について～」(学科FD)							

10月10日	「今後のキャリア教育において求められる、教養教育・専門教育とは」(全学FD)
11月21日	「シラバス作成のためのFD研修会」(各部主催FD)
2月13日	「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラムの紹介-初年次向け授業とライティング・センターでの取り組みについて-」(全学FD) など

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
リベラルアーツ学部	120人	148人	123%	510人	359人	70%	若干名	1人
人間科学部	330人	396人	120%	1,500人	1,322人	88%	若干名	1人
合計	450人	544人	121%	2,010人	1,681人	84%	若干名	2人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
リベラルアーツ学部	58人 (100.0%)	0人 (0.0%)	47人 (81.0%)	11人 (19.0%)
人間科学部	261人 (100.0%)	7人 (2.7%)	220人 (84.3%)	34人 (13.0%)
合計	319人 (100.0%)	7人 (2.2%)	267人 (83.7%)	45人 (14.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (株)りそな銀行、(株)スギ薬局、エームサービスジャパン(株)、三井住友海上火災保険(株)、堺市農業協同組合(社)生長会、大阪狭山市、帝塚山学院大学大学院、岡山理科大学大学院				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
リベラルアーツ学部	73人 (100.0%)	47人 (64.4%)	5人 (6.8%)	21人 (28.8%)	0人 (0.0%)
人間科学部	309人 (100.0%)	242人 (78.3%)	21人 (6.8%)	46人 (14.9%)	0人 (0.0%)
合計	383人 (100.0%)	289人 (75.5%)	26人 (6.8%)	67人 (17.5%)	0人 (0.0%)
(備考) リベラルアーツ学部の入学者数および修業年限期間内卒業者数に1年次への再入学者1名を含む。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>本学のシラバスは「授業の目的」「授業概要」「到達目標」「評価方法」「準備学習」「授業計画」「テキスト」「参考文献」等からなっており、教員の実務経験についてもシラバスに記載し、Web上で公開している。シラバス作成にあたっては、学生の主体的な科目選択と学習を促進することを重視している。作成方法については、シラバス作成の手引きを配布するとともに、説明会を実施している。また、シラバス作成後に教務部委員による第三者チェックを実施している。シラバス作成前にも、各担当者のシラバス1科目分をチェックし、その結果をフィードバックする試みも行っている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教育目的を踏まえ、卒業の認定に関する方針として、学科・課程ごとにディプロマポリシーを作成している。ディプロマポリシーでは「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4領域ごとに具体的な項目を設定しており、全学共通項目と学科独自項目と組み合わせ、設計している。全学共通項目では、本学が特に、4年間を通してのキャリア形成教育・支援、また基礎力として「日本語力」「英語力」「ICT活用力」「論理的思考力」の獲得を重視していることから、これらに関わる能力、適性を十分に反映するように工夫している他、「自己理解力」「社会理解力」「協調性」「主体的行動力」「社会的マナー」等、社会人基礎力にもつながる項目を多く入れている。作成した方針は、Web上に公表するとともに、「学生要覧」にも掲載し、卒業要件単位数などとともに、学生に周知している。なお、ディプロマポリシーとカリキュラムの一貫性を担保する方策として、カリキュラム内の各科目にディプロマポリシーとの関係性を明示したカリキュラムマップを全学科で作成し、Web上で公開し、シラバスにも明記している。</p> <p>卒業判定は、卒業年次以上の学生について修得単位数・不足単位数及び内訳をもとに、教授会で審議・決定している。リベラルアーツ学部の卒業に必要な最低単位数は124単位である。平成29(2017)年度入学生以降、共通科目は各分野の必修・選択必修を合わせて32単位以上、学科専門科目は必修の演習科目と専攻学習科目等を合わせて72単位以上を必要としている。人間科学部の卒業に必要な最低単位数は、キャリア英語学科、情報メディア学科、心理学科が124単位、食物栄養学科が128単位である。平成29(2017)年度入学生以降、共通科目は各分野の必修・選択必修を併せてキャリア英語学科では31単位以上、その他の学科では28単位以上を必要としている。学科専門科目は、必修科目・選択科目を併せて、キャリア英語学科は73単位以上、情報メディア学科は72単位以上、心理学科は76単位以上、食物栄養学科は管理栄養士課程62単位以上、健康実践栄養士課程66単位以上を必要としている。</p>				
---	--	--	--	--

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	124単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	48単位
人間科学部	キャリア英語学科	124単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	48単位
	情報メディア学科	124単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	48単位
	心理学科	124単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	48単位
	食物栄養学科	128単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	50単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：『学生要覧(履修の手引き、履修規程第7条、第35条)』 https://www.tezuka-gu.ac.jp/to_student/classwork/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：資格取得状況、学修時間等を公表 https://www.tezuka-gu.ac.jp/about/disclosure/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：[https:// www. tezuka-gu. ac. jp/about/disclosure/](https://www.tezuka-gu.ac.jp/about/disclosure/)
<https://www.tezuka-gu.ac.jp/campus/map/sayama.html>
<https://www.tezuka-gu.ac.jp/campus/map/izumigaoka.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
リベラル アーツ 学部	リベラル アーツ 学科				
人間 科学部	キャリア 英語 学科	880,000 円	250,000 円	350,000 円	
	情報 メディア 学科				
	心理学科	880,000 円	250,000 円	380,000 円	
	食物栄養 学科	880,000 円	250,000 円	420,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

全ての学生に対して、学業をはじめ学生生活全般にわたり継続的に指導、助言を行うアドバイザー教員を配置しており、個人面談や、随時の成績相談・学習相談・生活相談等を行っている。また、授業支援システム C-Learning に登録された授業出席情報を、アドバイザー教員が随時確認するとともに、ディプロマポリシーを反映した「学生キャリアカルテ」を用い、アドバイザー教員が担当学生の能力を多面的・継続的に評価し、修学支援を行っている。

奨学金制度としては、日本学生支援機構奨学金、小野奨学会奨学金や地方公共団体のもの等各種奨学金と、本学独自の奨学金である給付型の帝塚山学院大学奨学金などの、学生生活を支援するためのスカラシップ制度がある。

また、学生支援センターを設置し、学生生活に関する学生からの質問、相談等に事務職員がワンストップで対応している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を必修科目とし、1年次は「コミュニケーション、主体的な生き方、夢の実現、自立、アイデンティティの確立」、2年次は「社会生活とお金、グローバル経済、論理的思考、問題解決、リーダーシップとチームワーク」といった内容を提供している。

インターンシップ参加を通じた社会体験によるキャリア意識の醸成にも力を入れ、低年次からの参加を推奨し、「堺・南大阪インターンシップ推進協議会」での応募者、参加者とも 2017・18 年度の 2 年連続 1 位となっている。

きめの細かい個別進路相談を実施し、4 年間に於いて 2018 年 3 月卒業生ひとりあたりの平均面談回数は 9.6 回である。

就職支援講座として、業界研究対策、自己分析や自己PR作成など基本スキルの習得、筆記試験対策、グループディスカッション(GD)対策、面接試験対策など、実践に役立つ講座を開講している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

本学では学生の心身の健康等に係る支援の取組として、保健室、栄養相談室、学生相談室の設置ならびにハラスメント防止に努めている。

保健室では、健康診断や応急処置をはじめ、健康に関する相談などに応じている。健康やかなキャンパスライフを過ごすために、気軽に訪問できる体制としている。

栄養相談室では、学生生活を充実させるため、食生活の諸問題について担当教員が専門的な立場から相談に応じ、助言を行っている(予約制)。

学生相談室では、さまざまな悩みや問題に専門のカウンセラーが相談に応じている。学生が充実した学生生活を送れるように支援している。

ハラスメント防止対策委員会を設置し、ハラスメント防止規程およびガイドラインを定め、ハラスメントを防止するとともに、適切に対応するための体制を整備している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.tezuka-gu.ac.jp/about/disclosure/>